

深澤賢治著「陽明学のすすめ—経営講話『抜本塞源論』—」 明德出版社 2005年8月22日刊を読む

## 第五条 理想の学校

学校の中、ただ徳を成すを以て事となし、而して才能の異なる、あるいは礼楽に長じ、政教に長じ、水土播植に長ずる者あれば、すなわちその成徳に就きて、因りてますますその能を学校の中に精しからしむ。かの徳を挙げて任ずるに迄びては、すなわちこれをして終身その職に居らしめて易えず。これを用うる者は、ただ心と同じくし徳を一にし、以て共に天下の民を安んずることを知り、才の称否を視て、而して崇卑を以て軽重となし、劳逸を以て美悪となさず。用をいたす者も、またただ心と同じくし徳を一にし、以て共に天下の民を安んずることを知り、苟しくもその能に当たれば、すなわち終身煩劇に処して、しかも労となさず、卑瑣に安んじて、しかも賤となさず。

1. (1) 学校の中では人格を磨く事を目的として学び、それぞれが持つ能力、例えば礼楽・政治・治水・開墾等々の才能は、基本的人格を身につけさせた上で、その長所を開花させるようにすべきである。
- (2) 学校を卒業した時は、その才能を活かすように努め、一生同じ役に就いて転職させない事である。
- (3) 人を使う立場にある者は、世の中のためになるよう心をひとつにして、社会の人々が安心して暮らせるよう一致協力して努力し、その能力と仕事が合致しているかどうかを判断するが、地位の高低で差をつけたり、仕事の処理のスピードで善し悪しを決めたりはしないものだ。
- (4) 仕事をする者も、上の人達と心を合わせ、徳を一つにして一緒に社会全体の人々が安心して暮らせる事を考えて仕事を進め、自分の才能がその職種に合っていたなら、一生涯激務に就いても苦勞と思わず、低い地位にいても満足して、自分自身を貶めたりする事はなかった。
- (5) ここに書かれている学校の姿勢は今の時代に通用するかといえ、かなり問題があると思われる。
- (6) しかし生徒個人個人の能力に合わせて教えてゆく事は、本来の教育のあり方ではないかと感じています。
- (7) 生徒がそれぞれ心の満足をどこで得るか。学問をする事が楽しい。学校に行く事が楽しい。学問のレベルが見る見るうちに上達する。同じ時期に同じ学び舎で学んだ縁、いわゆる同学・学縁と言われるものですが、その中で自分自身の能力、世の中の役に立つ能力はこれだと分かる事が出来れば、何と素晴らしい事でしょうか。
- (8) 他人を妬まないし、他人の足も引っ張らない。そういう学校生活が送れたら、何と素晴らしい事かと感じます。自分の人生目標が定まれば、文句なしと言えましょう。

(9)私もちよつと閑があれば即、書店に飛び込んで心の飢えを癒やしてくれる本を探します。夜自宅に帰って、風呂に入ってシャワーを浴びる。これは肉体面での爽快感を覚えますが、精神的なシャワーを浴びるのと同じだなと感じるものは、本でございます。素晴らしい本に出会えるのは最高の楽しみだと感じます。

(10)学校として一番肝心なものは、生徒に<sup>いきどお</sup>憤り(いわゆる、やる氣)の氣持ちを起こさせる事だと感じています。自分自身の心の中からエネルギーが噴出してくる。勉強したい・学びたいと思うエネルギーが噴出してくる。そういう道筋を作り出してあげる事が、学校の一番大事な仕事ではなからうかと思っています。

2. (1)我々が学問をする時は、体系的に読む必要があります。

(2)儒学を学ぼうと思った場合に、『論語』から入るのは良いでしょう。『論語』から入ったら、『論語』の中身を読みつつ、どうしてこの書物ができたかと考えます。すると、孔子はいつ頃生まれた人か、どういう事を考えた人か、どういう事を成し遂げた人か、そこを考えるようになるわけです。

(3)また、日本の国内で『論語』の影響を受けた人物は誰だろう、『論語』とは一体何なのだろう、学問としてはどういう体系に入るのだろうか、という事を考えざるを得ないわけです。

(4)そうなると、儒学という言葉にぶつかります。儒学とは何なのだろう、儒学と儒教とは、一体どう違うのだろうかという所を考えるようになり、体系的に中国の古典を考える事が必要になります。

(5)『論語』はどのような範疇に入るのだろうかと考え、『論語』を調べ始めると、「四書五経」という言葉がどうしても気になります。次は知らず知らずのうちに「四書五経」に関する書物を紐解くようになり、専門家に聞くようになります。『大学』は何だろう、『中庸』という書物は何なのだろうかと考えざるを得ません。孔子の系統の中では自然と、孟子・朱子・陽明に興味を覚えるようになるわけです。

(6)理想的な学校は、このように自分で学問をする糸口を自然と体得するような環境をつくる事で、出来上がって来ると言えましょう。

P102 ~ 106

#### <コメント>

警備会社シムックスの創業者であり、二松学舎大学ご卒業の深澤賢治先生による「陽明学のすすめ」。理想的な学校とは「自分で学問をする糸口を自然と体得するような環境をつくる事で出来上がる」。大賛成です。

— 2018年1月3日(水) 林明夫 —